

【取材調整可能・有識者(大学教員)のご紹介】
〈3月8日 国際女性デー〉妊活中の検索魔に言及
入院中の妊婦が、助産師ではなくネットに助けを求める時代？
ネットに溢れる情報から適切な情報の取得方法を大公開

摂南大学 看護学部 看護学科 井田 歩美 (いだ あゆみ) 教授

摂南大学（大阪府寝屋川市、学長：久保康之）では、9学部17学科にわたる専門分野を持つ教員への取材を受け付けております。今回は、**摂南大学 看護学部看護学科 井田 歩美 教授**を紹介します。

3月8日は**国際女性デー**です。男女共同参画社会が進められているとはいえ、結婚・出産・子育てといったライフイベントを両立させるためには不安や悩みが絶えず、ネットに答えを求める人が多くいます。特に周囲とのコミュニケーションが取りにくい**妊活の話題は、ネットの情報に頼りきりになる“検索魔”が増えている**と言われています。

ロート製薬が実施した『妊活白書2019』※によると、20代後半（25～29才）の妊活割合がやや上昇しており、3人に1人が妊活を始めているという結果になりました。また、既婚男女のうち「妊活に対して周囲への協力を要請した」人は1割程度で、「親と妊活についての会話をした」経験がある人は約2割という結果になりました。**妊活を行う夫婦が増える一方で、周囲へのコミュニケーションが取りにくい状況が続いている**ことがわかります。そんな中インターネットが発達している現代において、情報の信憑性が低いものを信じてしまうケースも多く発生しています。信頼できる情報に辿り着くためには、どのような手順が大切になるのでしょうか？妊活中のカップル、特に検索魔になっている女性に、**適切な情報の選択**について解説します。

ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※ ロート製薬『妊活白書2019』https://www.rohto.co.jp/-/media/cojp/news/release/2020/0204_01/ninkatsu2019.pdf

◆プロフィール

所属 : 看護学部 看護学科
職位 : 教授
学位・資格 : 博士（看護学）
研究分野 : ライフサイエンス/生涯発達看護学/情報通信
/ウェブ情報学/サービス情報学



井田 歩美 教授

◆お話しできること

・妊活中の検索魔 ネットに溢れるフェイク情報で妊活鬱に

⇒ネットに溢れるネガティブな情報を信じ、妊活鬱になる女性が増加
正しい情報に触れていくための手段について解説します

・妊娠前の生活習慣が子供に影響？プレコンセプションケアの重要性

⇒妊娠前の女性とカップルに言及
妊娠前からの健康管理の重要性について解説します

・女性だけでなく、男性の健康状態も影響！男性にこそ知ってほしい妊娠知識

⇒妊娠は、女性だけでなく男性の健康状態も大きく影響します
女性に焦点が当たることが多い妊娠の話題ですが、男性にこそ知ってほしい妊娠の知識を解説します

本件に関わる内容を幅広くお話可能です。ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※できる限り調整をさせていただきますが、取材のタイミングによってはお受けできない可能性もある旨ご了承ください。

【報道関係者様のお問い合わせ先】

摂南大学広報事務局（アンティル内） 担当：佐藤、阿部、水原、藤井、大瀧

TEL：06-6225-7781 E-MAIL：setsunan_pr@vectorinc.co.jp

コミュニティサイトへの投稿内容から見る妊婦の情報ニーズと本音

日本では、2008年にiPhoneの発売が開始されて以降、現在では20～49歳の女性の約94%がスマートフォンを保有しており※2、インターネット上のコミュニティをはじめとしたソーシャルメディアを利用しています。インターネット社会は進化し続けており、また、そういった世代の女性の仲間づくりや情報交換の方法は、口コミサイトからInstagramなど多様化しています。

その背景には、インターネットの普及だけではなく、女性の社会進出、少子社会および地域連帯感の希薄化など、妊婦や子育て中の母親を取り巻く環境が変化したことや、身近なところで同じ境遇の人を探すことが難しいことも一因であると考えられます。

※2総務省『令和3年通信利用動向調査（世帯構成員編）』

明確な回答より不安の共有と妊婦同士のつながり

口コミサイトに投稿された内容を分析し、妊婦や母親など女性の情報ニーズを調査すると、妊婦は聞きたいことの回答を求めるだけでなく、**不安の共有および妊婦同士のつながりを求めている**ことが明らかとなりました。助産師は、健診結果について妊婦が十分に理解・納得できているのかを確認すると共に、情報が不足していると判断した場合には、**医学的根拠に基づいた個別的かつ具体的な情報を提供する必要があります**。

一方、インターネットの普及により得られる膨大な情報は玉石混淆であり、インターネットで情報を得ることによって、さらに不安が増大したといった訴えもあります。助産師は、ソーシャルメディア上でかわされる発言の内容を把握し、インターネットを活用した情報収集を行っていることを前提とした対象理解が必要となります。さらに、**膨大かつ多種多様な情報の整理を促し実践に活用できることや、妊婦同士の誤った理解を回避するようなサポートが重要**となります。



妊婦の声を集め真の情報ニーズを体現

経歴

岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程修了。

10年以上にわたり株式会社ベネッセコーポレーションの管理する「ウィメンズパーク」（2022年1月末サービス終了）に寄せられた投稿の分析を続け、論文を多数発表している。

論文

- ・ 低出生体重児を育てる母親の情報ニーズーコミュニティサイトにおける投稿内容の分析ー
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行下における妊婦の不安と困惑の状況ーソーシャルメディアへの投稿内容の分析ー

主なメディア出演・掲載

- ・ たまひよ「同じ悩みをもつ低出生体重児のママ達が、共感や安心感を得られるピア・サポートの役割って？」
- ・ たまひよ「泣き寝入りでなく声を上げて、集まれば大きな声に。」の投稿サイト内「妊婦が受けているマタハラの実情」

研究発表

- ・ 新型コロナウイルス禍における妊婦の不安、困惑の様相ーソーシャルメディアへの投稿内容の分析ー
- ・ 0～6か月児をもつ母親のパートナーへの思いーソーシャルメディアにおける投稿の分析ー
- ・ 妊娠切望期から育児期における女性の意思決定支援に向けた情報ニーズの体系化
- ・ インターネットによる子育て支援方法の構築に向けた研究

【報道関係者様のお問い合わせ先】

摂南大学広報事務局（アンティル内） 担当：佐藤、阿部、水原、藤井、大瀧

TEL：06-6225-7781 E-MAIL：setsunan_pr@vectorinc.co.jp